

名鉄グループ
環境・社会報告書
2007





名古屋鉄道株式会社
取締役会長

木村 操



名古屋鉄道株式会社
取締役社長

木下 栄一郎

地球温暖化現象は、その解決に向けて様々な取り組みが進められているものの、未だ進行に歯止めがかかりません。日本政府も、京都議定書を超えて、世界全体が参加し、世界全体の温室効果ガスを現状から2050年までに半減させるという画期的な提案「美しい星50」を発信しています。このように、地球環境問題は、地球上の全ての国、企業、国民が例外なく取り組まなければならない、まさに喫緊の課題であります。

名鉄グループでは、平成18年に環境方針「名鉄グループエコ・ビジョン」を策定し、地球環境問題に対して、グループ一体となった取り組みを行っております。昨年度は、国民運動「チーム・マイナス6%」に参画し、温室効果ガスの6%削減に向け取り組みを開始いたしました。

今後はさらに活動の幅を広げるため、グループの総合力を生かして、各社が保有する環境保全技術やノウハウを集約し、各事業に伴う環境負荷の軽減に役立てるとともに、それらの技術等を社会へ提供し、地球温暖化防止に貢献できるよう取り組んでいきたいと考えております。

一方、当社では、電車を使った環境にやさしい移動・行動を広く訴え、地域の皆さまとともに環境問題を考える「電車で、ECO MOVE。」キャンペーンを展開しております。鉄道、バスといった公共交通は、エネルギー効率が高く「環境にやさしい」交通手段として、地球温暖化防止の重要な解決策の一つに挙げられるなど寄せられる期待は大きいものがあります。そのような背景の下、より多くのお客さまに公共交通をご利用いただき、高まる期待に確実に応えられますよう、省エネ型車両の積極的導入、バリアフリー化の推進、利便性の高いダイヤ等、安全性や快適性の一層の向上に努めてまいります。

2005年に「自然の叡智」をテーマとした国際博覧会が開催されて以降、この地域の環境に対する意識はこれまでになく醸成され、環境負荷の軽減に向け、企業・市民・行政が一体となった横断的な活動が活発に展開されております。こういった動きに社員一人ひとりが積極的に関わり、社会・環境に貢献できる企業集団として、少しでもこの地域の発展に寄与できますよう、グループ一体となって事業活動と環境保全の両立に真摯な姿勢で取り組んでまいります。

目次 CONTENTS

OUTLINE

01 名鉄グループの概要

プロフィール	3
名鉄グループ経営ビジョン	4
コンプライアンス体制	5
リスクマネジメント体制	5

ENVIRONMENT

02 環境活動報告

名鉄グループ エコ・ビジョン	8
環境マネジメントシステムの導入	10
環境教育・環境監査	11
環境活動報告 名古屋鉄道の取り組み	12
名鉄エコ・プラン	12
①環境負荷の軽減	14
②利便性の向上	18
③地域環境貢献	19
④環境法令の遵守	20
環境活動報告 名鉄グループの取り組み	
鉄軌道	21
バス	22
タクシー	24
トラック	25
流通	26
不動産・開発	27
ホテル	28
レジャー	29
技術	30
環境負荷データ	31
環境会計	32
環境活動の沿革	33

SOCIETY

03 社会活動報告

安全の確保	35
快適なサービスの提供	37
従業員の資質向上	38
社会への貢献	39

編集後記	40
------	----

対象組織範囲 名古屋鉄道(株)と名鉄グループ175社*を対象としています。
*関係会社187社から、実質的な経営権を有しない会社等を除いています。

対象期間 平成18年4月1日から平成19年3月31日までとしました。ただし、平成19年4月1日以降に組み込んだ内容も一部記載しております。

記載方法 環境省「環境報告書ガイドライン(2003年度版)」を参考にし、可能な限りガイドラインに記載された事項を網羅するよう努めました。

名鉄グループの概要

地域から愛される 「信頼のトップブランド」をめざして



名古屋鉄道をはじめとする名鉄グループは、地域の皆さまの生活に密接に結びつく運輸、不動産、流通、レジャー、技術開発などの事業を展開する企業集団です。地域の皆さまの暮らしに密着した幅広いサービスや商品の提供を通じて、地域の価値向上に努め、永く社会に貢献していくことを使命にしています。

今後も豊かな生活を実現する事業を通じて、安心、安全、快適、楽しさ、夢そして感動を提供し続け、地域の皆さまから愛される「信頼のトップブランド」を築いていきます。

プロフィール

(平成19年3月31日現在)

関係会社数 連結子会社 165社 持分法適用会社 22社

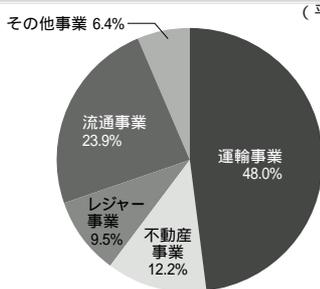
営業収益 6,969億2千7百万円(平成19年3月期)

従業員数 35,257人

事業別の状況

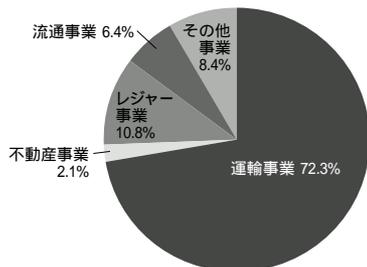
営業収益比率

(平成19年3月期)



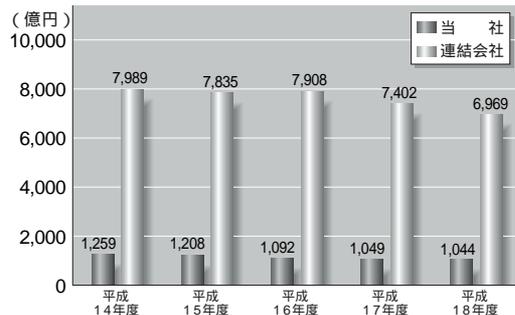
従業員数比率

(平成19年3月31日現在)



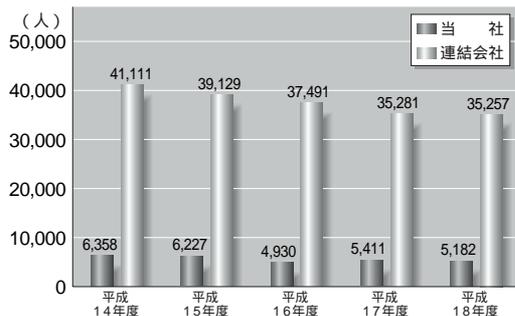
営業収益の推移

(億円)



従業員数の推移

(人)



名古屋鉄道株式会社の概要

(平成19年3月31日現在)

社名 名古屋鉄道株式会社 Nagoya Railroad Co.,Ltd.

創業 明治27年(1894年)6月25日

設立 大正10年(1921年)6月13日

代表者 取締役社長 木下 栄一郎

資本金 841億8千4百万円

営業収益 1,044億1千万円(平成19年3月期)

従業員数 5,182人

事業内容 鉄軌道事業、開発事業



名鉄グループ経営ビジョン

名鉄グループでは、地域価値の向上と社会への貢献という使命を永続的に果たしていくため、グループの将来像や方向性を中長期的な視野で描いた「名鉄グループ経営ビジョン」を平成17年12月に策定しました。

少子高齢化や顧客ニーズの多様化など経営環境の変化を背景に、改めて名鉄グループが事業を通じ果たすべき役割や責任、社会に存在する意義を明確にし、新たな発展に向け経営基盤強化のベクトルを提示することで、地域から信頼される「名鉄ブランド」の確立を図ることを目的としています。

経営理念

私たち名鉄グループは、豊かな生活を実現する事業を通じて、地域から愛される「信頼のトップブランド」をめざします。

経営の原点		グループ経営の方向		
経営方針	お客さま満足を高める全社体制の確立	競争に打ち勝つ経営力強化と新しい事業への挑戦		
	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全、安心の徹底 ● お客さま本位へのさらなる意識改革 ● 真に求められる商品・サービスの開発、提供 	<ul style="list-style-type: none"> ● 各社得意分野の確立 ● 各社のグループにおける役割の明確化と連携強化 ● 社会の新しい流れに沿った事業へのチャレンジ 		
	目指す社風		存続の条件	
	一人ひとりの資質向上とチャレンジできる風土づくり	社会的責任の完遂		
役割と責任の明確化 次世代を担う人材育成 チャレンジ精神の尊重	名鉄グループ企業倫理基本方針の徹底 地球環境保全活動の推進 良き企業市民としての積極的活動			

行動規範

真心のこもったサービスを提供し、信頼を勝ち取ります。
新しい流れをつかみ、常にチャレンジします。
一人ひとりが役割と責任を果たし、前進します。

名鉄グループ 新3ヶ年経営計画 (平成18～20年度)

新たな経営計画では、グループ事業の将来を見据えた基盤の拡充・強化に努め、「安定的利益の維持・向上」体制の確立をめざします。

名古屋鉄道の諸施策

- I 鉄軌道事業 / 鉄道サービスの向上
便利ダイヤ・便利な切符・便利な駅
路線の性格に応じた鉄道経営の推進
- II 開発事業 / 沿線不動産の再開発
変貌をとげる名古屋駅エリアの再開発
拠点駅の再開発(岐阜・鳴海・東岡崎など)

名鉄グループの諸施策

- III 名鉄グループ各事業の基盤強化
各セグメント毎の事業の方向性を明確化し、
個々の会社の収益力を高め、全社黒字化をめざします。
- IV 名鉄グループ経営体制の強化
グループ事業を重視した本社機能の確立
「選択」と「集中」のさらなる推進

コンプライアンス体制

名鉄グループでは、法令や社内規則に加え、社会通念上の倫理や道徳を含む社会規範を遵守し、誠実に行動するため「企業倫理委員会」を設立し、その後「企業倫理ヘルプライン」を設置するなど、コンプライアンス体制の確立に努めてきました。また、その行動原則となる「名鉄グループ企業倫理基本方針」を策定しています。

この基本方針は、名鉄グループが地域社会からの信頼を得ることを基本的姿勢とし、誠実かつ公正な事業活動を行うことにより、社会の発展に貢献することを目標に掲げています。その目標を達成するために、5つの基本原則と22項目の行動指針を定め、私たちの役割と責任を明確にしています。

名鉄グループ企業倫理基本方針 基本原則

- 1 | **ルールの遵守(法令遵守の徹底)**
ルールを遵守し、社会規範に従い、高い倫理観を持って責任ある行動をします。また、万一、この方針に違反するおそれがあるとき、違反する行為をしたとき、または違反する行為を発見したときは、直ちに上司や関係者に報告し、適切な措置をとります。
- 2 | **安全の確保**
安全の確保はすべてにおいて優先します。全社をあげて、絶えず安全が阻害されていないかどうかを監視し、安全性の向上に努めます。
- 3 | **公正な事業活動**
お客さま、株主、地域社会などすべての会社関係者に対し、誠実かつ公平正大に接し、透明性のある事業活動を行います。
- 4 | **積極的なコミュニケーション活動**
広く社会とのコミュニケーションを行うとともに企業情報を積極的に発信し、開かれた会社を目指します。
- 5 | **人と社会の尊重**
人権を尊重するとともに、良き企業市民として、社会貢献・環境保全活動などに積極的に取り組みます。

リスクマネジメント体制

名古屋鉄道では、事業を取り巻く様々なリスクに対する的確な管理・実践を可能にすることを目的に、平成19年3月、「リスク管理規則」を制定し、その運用を開始しました。リスクを的確に把握し、損失の発生を未然に防止するための分析や協議を行う「リスク管理委員会」の下に、特に対策が必要なリスクに対する「テーマ別委員会」を複数設置し、より具体的で詳細な協議を行うことで、迅速かつ適切なリスク対策が図られる体制を構築しています。

地球環境との よりよい共生をめざして



平成17年2月に「京都議定書」が発効し、地球温暖化防止への取り組みが世界規模で進められるなど、地球環境保全は、今や将来にわたって取り組むべき、人類共通の最優先課題となっています。この課題を解決するために、私たちはその本質を認識し、個人から各組織体まで例外なく、問題解決へ向けて取り組むべきであると考えます。

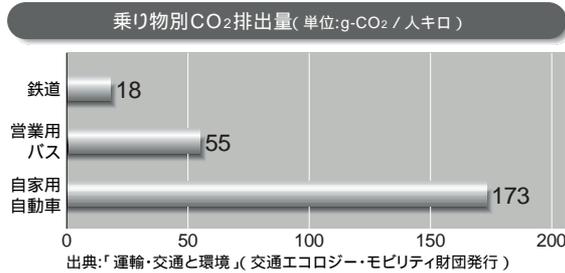
名鉄グループでは、これまでも各社がそれぞれ環境への取り組みを地道に進めてきました。持続可能な社会を構築し、よりよい環境を次代へ引き継いでいくためには、名鉄グループが一体となって環境活動を展開・推進し、より地球環境保全に貢献しなければならないという思いから、平成18年4月、グループ環境方針として「名鉄グループ エコ・ビジョン」を策定し、新たな推進体制の下での取り組みを行っています。

環境にやさしい企業活動をグループ経営戦略のひとつとして活かし、社会的責任の完遂を具現化する中で、名鉄グループ経営ビジョンに掲げる「信頼のトップブランド」の実現をめざしていきます。

「電車で、ECO MOVE。」



省エネルギー車両(名鉄3300系)



地球環境問題が一層深刻化する中、地球温暖化を世界規模で食い止めようとする「京都議定書」の発効を機に、環境問題への意識が高まっています。中でも鉄道は「環境にやさしい乗り物」として、社会的な注目を集めています。

「やさしさ」の理由は、移動に伴う環境負荷の小ささ。例えばマイカーで移動することと比べると、一人が電車で1km移動する際に発生するCO₂の量はマイカーの約10分の1ですみます。

マイカーの環境性能こそ日々向上していますが、それを上回るペースで台数が増加しており、温室効果ガスの増加に大きく影響しています。電車で移動するという行動そのものが、環境にやさしい行動といえます。

名古屋鉄道では、あまり認知されていなかったこの「やさしさ」をまず知っていただき、「身近で簡単なエコ活動」として電車をもっと使っていただきたいという思いから、平成18年6月から「電車で、ECO MOVE。」キャンペーンを展開しています。

TOPICS



市民との対話～「電車はクルマを超えられるか」

平成19年2月、環境省中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)の協力のもと、「電車はクルマを超えられるか」をテーマに、19名の市民の皆様とディスカッションを行いました。環境にやさしい鉄道の利用促進に関するPR「電車で、ECO MOVE。」キャンペーンを展開する名鉄側に対して、名鉄を使うのに障害となっているものは何か、より使いたくなるには名鉄がどうなればいいのかなど、市民の皆様との立場としてだけでなく、名鉄社員の立場でもお考えいただき、席上では忌憚ない意見が交わされました。いただいたご意見は、以後の当社の活動に活かせるよう関係各部署へ提案し、検討を重ねています。

EPO中部 <http://www.epo-chubu.jp/>



駅からはじまる環境にやさしい暮らし

チーム・マイナス6% 鉄道でエコキャンペーン



名鉄グループ鉄軌道各社は、「チーム・マイナス6%」鉄道でエコキャンペーンに参加しています。

名鉄グループ エコ・ビジョン

名鉄グループでは、環境にやさしい企業活動をグループ経営戦略のひとつとして活かし、社会的責任の完遂を進めていくため、環境方針「名鉄グループ エコ・ビジョン」の策定と推進体制の構築を進めています。

名鉄グループ エコ・ビジョン

基本理念

名鉄グループは、環境問題を地球規模で考え、
地域・個人レベルで行動し、
環境にやさしい企業をめざします。

基本方針

- 1 | 環境問題に対する一人ひとりの意識向上につとめます
地球環境問題を正しく理解し、持続可能な社会の実現のために一人ひとりが行動できるよう、環境教育や啓発を通じて、意識向上を図ります。
- 2 | 環境保全に関する技術力の向上と提供につとめます
グループが展開する幅広い事業を活かし、各社が保有・開発する環境保全技術やノウハウの共有と社会への提供を通じて、環境負荷の軽減を図ります。
- 3 | 地域との連携を大切にし、環境保全に対する社会貢献につとめます
地域を中心とした関係各方面と協力し、地域環境保全の向上を図ります。また環境に関する情報公開を通じて、あらゆるステークホルダーとの対話を深めます。
- 4 | 環境法令の正しい理解と遵守につとめます
名鉄グループ企業倫理基本方針に則り、環境法令の理解・遵守はもちろんのこと、各社相互間の情報交換等を通じて、環境リスクの予防と低減を図ります。

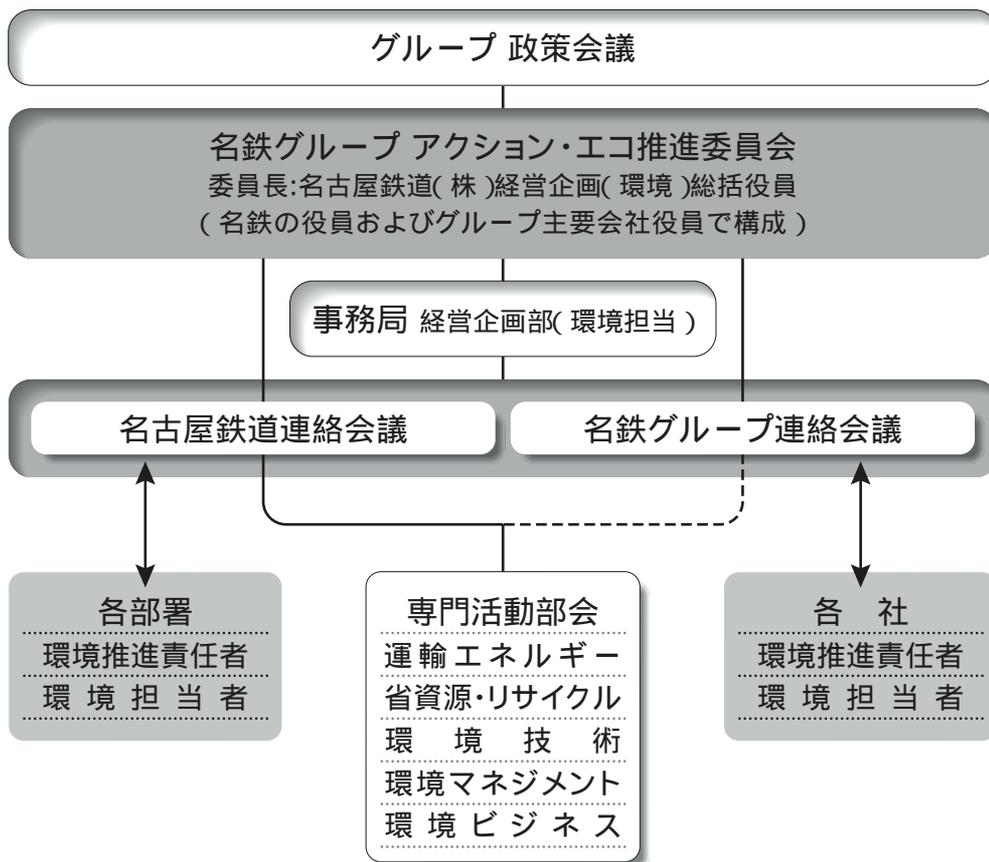
行動目標

上記の基本理念・基本方針を受け、
名鉄グループ各社毎に、環境活動における行動目標を設定します。

推進体制

名鉄グループ一体となった活動を推進するため、「名鉄グループ アクション・エコ推進委員会」を平成18年4月、新たに設置しました。この委員会では、グループ政策会議で決定される基本方針を受け具体的な施策の立案と推進を行います。

施策の実施を円滑に行うため、連絡会議の開催や、各部署・各社に配置した「環境推進責任者」「環境担当者」を通じて、活動の浸透を図っています。



アクション・エコ中期計画



名鉄グループ連絡会議

- 平成18年度 グループ環境方針の浸透と推進体制の確立
- 平成19年度 グループ環境経営の具体化のための施策展開
- 平成20年度 各社環境活動の定着と深度化の実現

平成18年8月に開催した「名鉄グループ アクション・エコ推進委員会」では、電気・ガス・水道の使用量の6%削減(平成18年度比)にグループ全社が取り組むことと、「チーム・マイナス6%」に参加することをあわせて決議しました。決議内容は、平成19年1月に開催した名鉄グループ連絡会議において各社担当者へ解説し、その推進方法を検討しました。

環境マネジメントシステムの導入

名鉄グループ各社では、より環境に配慮した事業展開を行うため、各種の環境マネジメントシステムを導入しています。これにより、環境負荷の軽減や環境リスクの予防はもとより、経営効率の向上などの効果も生まれています。

各種認証取得会社・認定会社（平成19年6月現在）

ISO14001認証取得会社

会社名	取得年月	審査登録機関
名古屋鉄道(舞木検査場)	平成12年6月	JQA
矢作建設工業	平成12年8月	(財)建材試験センター
メイエレック	平成13年6月	JQA
電通名鉄コミュニケーションズ	平成13年9月	JQA
山梨名鉄運送	平成14年4月	JACO
名鉄ビルディング管理	平成14年6月	(財)東海技術センター
名鉄百貨店	平成14年8月	JQA
名鉄運輸	平成14年9月	JQA
名鉄協商	平成15年2月	(財)東海技術センター
名鉄クリーニング	平成15年3月	KHK
奥飛観光開発	平成17年3月	(財)日本ガス機器検査協会
中日本航空	平成18年11月	JQA
名鉄グランドホテル	平成18年12月	JQA

JQA:(財)日本品質保証機構 JACO:(株)日本環境認証機構 KHK:高圧ガス保安協会

グリーン経営認証 取得会社

バス

名古屋観光日急 | 宮城交通 | 福井鉄道

タクシー

名鉄交通 | 愛電交通 | 名鉄西部交通 | 名鉄知多タクシー
名鉄東部交通 | 名鉄名古屋タクシー | 浜松名鉄交通
豊鉄タクシー

トラック

信州名鉄運輸 | 四国名鉄運輸 | 名鉄ゴールデン航空
西肥名鉄運輸 | 東北名鉄運輸 | 柳島運送 | 東海名鉄運輸
名鉄急配 | 新潟名鉄 | トーハイ | 三陸貨物
名鉄カーゴサービス

グリーン経営認証とは、交通エコロジー・モビリティ財団が運輸事業者を対象に、環境に配慮した事業が展開されていることを認証する制度。

名古屋市エコ事業所 認定会社

名古屋鉄道 | 名鉄病院 | 名鉄百貨店 | 名鉄協商 | 名鉄産業 | 矢作建設工業 | メイエレック | 東海名鉄運輸

名古屋市は、市内にある事業所のうち、事業活動における環境に配慮した取り組みを自主的に、積極的に実施している事業所をエコ事業所として認定している。

取り組み事例

奥飛観光開発



中部山岳国立公園内にて事業を営む新穂高ロープウェイ及びホテル穂高は、平成17年にISO14001認証を取得しました。平成18年には継続審査にも合格し、世界に誇る中部山岳国立公園の自然とそこへ訪れる人との共生をめざして、活動していきたいと考えています。

中日本航空



調査測量事業本部・豊山事務所では、平成18年11月に「ローエミッションな経済活動の実現」を目標にISO14001の認証を取得しました。紙・電気・廃棄物・ガソリンのCO₂係数を定め、今後5年間で、従業員一人当たりCO₂排出量の年間40kg削減に取り組んでいます。

環境教育・環境監査

企業が環境活動を行う上で、従業員一人ひとりが環境問題に対して正しい認識を持つことは非常に重要なことと考えます。従業員に対しては定期的に環境教育を実施し、理解の定着を図るとともに、環境監査の実施によりその定着度合を測っています。

環境教育



名鉄グループでは、入社時や管理職昇格時、入社後一定期間経過時等に、環境教育(研修)を行っています。研修では、環境問題の概論から当社の事業に関連する環境リスクまで幅広く解説し、それを受けて従業員一人ひとりが環境問題の解決のために何ができるかを考えさせています。

平成18年度 環境教育(研修)受講者数

新入社員研修	158名(2回)
新任駅長研修	13名(1回)
入社10・20年次研修	264名(4回)
技能管理職研修	21名(1回)
名鉄グループ連絡会議	103名(1回)
合計	559名(9回)

環境監査

名古屋鉄道では、環境法令や社内規定の遵守状況を把握するため、平成16年度から環境監査を実施、現在約15項目の監査項目を設けています。監査時には、監査担当者が各項目の状況と改善勧告を行い、被監査部署は改善策を検討し、速やかに改善を行います。

環境監査項目の例

廃棄物を法律や自治体の定める方法で分別し、適正に処理していますか？

環境に配慮したグリーン商品を優先して購入していますか？

使用済み乗車券回収箱に、禁忌品を混ぜていませんか？

乗車券リサイクルに支障をきたすため、クリップやホチキス針等を禁忌品として混入を禁じています。



名古屋鉄道の取り組み



当社は、名古屋を中心として愛知、岐阜両県下に445.4 kmの鉄道路線網をもち、1日あたり約93万人(平成18年度)のお客さまの足として、公共交通サービスを提供しています。地球環境へ問題意識が高まるなか、エネルギー効率のよい鉄道やバスなど、公共交通機関の果たす役割が見直されてきております。鉄道は、マイカーに比べCO₂排出量が約1/10であり、「環境にやさしい乗り物」として地球温暖化防止への貢献が大いに期待されています。その他、パーク&ライド駐車場の整備や省エネ型車両への更新、使用済み乗車券のリサイクルなどにも継続して取り組んでいます。

これからも、さらなる輸送サービスの向上をめざし、様々な交通事業者との連携や地域特性を生かした交通ネットワークの充実を図るとともに、安全で快適な移動環境を提供することで、お客さまの利便性と満足度を高め、地域社会に貢献していきたいと考えています。

名鉄エコ・プラン

名鉄の環境活動を進めるにあたり、活動の基本的な考え方を示す環境方針「名鉄エコ・プラン」を平成19年4月に制定しました。各部署は、この方針をもとに、それぞれの業務の中で発生する環境負荷の把握を行い、それを軽減させるために取り組める内容を「エコ・マニフェスト」として設定しています。

行動指針

環境負荷の軽減

- 1 省エネルギー、リサイクルなどの目標を掲げ、温室効果ガスを削減します。
運転電力削減目標を達成します。
使用済み乗車券のリサイクル率100%を達成します。

利便性の向上

- 2 効率的で利便性の高い公共交通サービスを提供し、環境にやさしい鉄道の利用を促進します。

地域環境貢献

- 3 地域の皆さまとともに環境保全活動を推進し、環境にやさしい地域社会づくりに貢献します。

環境法令の遵守

- 4 環境問題に対する意識を高め、環境法令の遵守を徹底します。

行動目標

各部署が環境行動目標を設定し、
「エコ・マニフェスト」として部署長が宣言し、実行する。 p13参照

エコ・マニフェスト



マニフェスト掲示風景

各部署での業務の中で取り組める、または取り組むべき環境行動を目標として掲げ、部署長が宣言する「エコ・マニフェスト」は、当社の環境活動の最も基礎となる取り組みです。一年ごとに結果と目標の見直しを行い、継続的な環境改善をめざします。

指針	目標の内容	主な取り組み	宣言部署		
環境負荷の軽減	意識の向上	環境教育の実施	新入社員研修、階層別研修の実施	土木保守部、車両保守部	
		エコキャンペーンの実施	2回/年のキャンペーンを毎年継続	支配人・幹事駅、車両保守部、監査役室	
		環境の取り組みに関する情報の収集	他社・他業種の環境取組の情報収集	東京支社	
	環境負荷の軽減	電力使用量の削減	不要照明の消灯、OA機器の不要電源の消灯、空調の適正使用	コンプライアンス部、IT推進室、総務部、財務部、人事部、監理部、病院、企画管理部、支配人・幹事駅、土木保守部、車両保守部、電気保守部	
		運転電力原単位の削減	22年度までに18年度比4%削減	運転保安部	
		ガス使用量の削減	ガス使用量の削減	病院	
		燃料使用量の削減	社用車のエコ運転、作業車アイドリング整備の短縮	秘書室、土木保守部、電気保守部	
		資源使用量の削減(水、紙等)	裏紙使用によりOA用紙使用量の削減、エコホッチキスの使用、IT統制での専用シートの合理的な使用推進、2UP印刷の推進	内部統制室、IT推進室、広報宣伝部、財務部、人事部、病院、企画管理部、営業部、支配人・幹事駅、土木保守部、車両保守部、電気保守部、土地事業部	
		廃棄物の削減	分別の徹底、分別マニュアルの作成、リサイクル率の向上	人事部、病院、支配人・幹事駅、車両保守部	
		環境技術の積極的導入	環境にやさしい鉄道づくりの推進	信号灯器のLED化、中水の利用、産廃にならない材料の使用、環境負荷の小さい施工方法の採用	車両・電気部、建設部、電気保守部
	鉄道電力の効率使用に関する検討の継続		乗務区等による研究実践、電力委員会の継続開催	運転保安部、支配人・幹事駅、電気保守部	
	乗車券リサイクルの推進		乗車券リサイクルベンチの設置推進	企画管理部、建設部	
	沿線環境保全対策の推進		環境に優しい新技術の導入	企画管理部	
	環境ビジネス関係の取引の促進		環境ビジネス関係の取引の促進	経営企画部	
	広告クライアントへの協力要請		広告ポスターのリサイクル紙使用の奨励	開発事業部	
	グリーン購入の推進		グリーン購入率(金額ベース)の向上	秘書室、財務部、人事部、監理部、企画管理部、支配人・幹事駅、電気保守部、土地事業部	
	利便性の向上	輸送サービスの高い提供	エコムープキャンペーンの推進	広告物・名刺への「エコムープマーク」印刷の推進	支配人・幹事駅
			省エネ車両への更新と旧型車両の廃車促進	省エネ車両比率の向上	車両・電気部
バリアフリー化			バリアフリー5ヵ年計画の遂行	建設部	
パーク&ライド駐車場の整備			新規整備の推進	開発事業部	
鉄道利用機会の向上			迅速かつ丁寧な案内による鉄道利用機会の向上	お客さまセンター	
地域環境貢献	環境コミュニケーション	環境イベントの開催	電車沿線ハイキング「エココース」の造成	営業部	
		環境・社会報告書の発行	環境・社会報告書の充実	経営企画部	
		環境PRの推進	首都圏での名鉄グループの環境取組PR	東京支社	
	地域での環境社会貢献	事業所周辺の地域清掃活動	地域の清掃活動への参加	コンプライアンス部、経営企画部、監理部、建設部、支配人・幹事駅、土木保守部、車両保守部、電気保守部	
		不法投棄の防止	適切な用地管理の実施によるゴミ不法投棄の防止	土地事業部	
		社有地周辺の環境保全	駐車場でのアイドリングストップ周知	開発事業部	
		里山保全の推進	社有地や沿線の里山保全事業への協力	土地事業部	
環境法令の遵守	法令の理解促進	環境法令セミナーの開催	役職員への環境法令理解の徹底	総務部、病院	
		業務監査の徹底	廃棄物の分別徹底	コンプライアンス部	
	法令への対応	委託業者の法令遵守状況の監理	団地開発工事の適正監理	土地事業部	
		有害廃棄物の適正管理	PRTR化学物質の管理	該当物質含有製品の削減	車両保守部
			吹き付けアスベスト対策	対策の実施	ビル事業部
PCB廃棄物対策	PCB廃棄物処理の促進	電気保守部、ビル事業部			

宣言期間:平成19年度 - 平成20年度

行動指針 1 | 環境負荷の軽減

名鉄では、環境負荷軽減をめざして、省エネ・省資源活動の推進を積極的に行っています。特に平成19年度は、鉄道車両を更新することで、消費電力量の削減を図り、温室効果ガスの削減に寄与することをめざしています。

1 電車の運転電力原単位の向上

平成22年度の電車の運転電力原単位*を、
全線で平成18年度比 4%をめざします。

*電車1両が1km走行するのに要する電力量

電車の運行では、非常に多くの電力を消費します。なるべく少ない電力で運行ができるよう、乗務員の節電運転研究や、線区毎の省エネ活動組織(運輸エネルギー部会)での取り組みのほか、車両自体の省エネルギー化の推進や電気設備の改良を行い、原単位の向上に努めています。

平成18年度は、車両走行キロは増加したものの、需要に応じたダイヤ編成、車両構成に努めたり、節電を意識した運転に心がけたりしたことと、暖冬による暖房ヒーター使用の少なかったこともあり、原単位は前年度比約3%向上しました。

運輸エネルギー部会の開催

主に、運転電力の効率使用を推進するため、各線区毎に活動する「運輸エネルギー部会」は、電車の運行環境など、線区毎の特性を反映した、より実効性のある省電力活動を推進しています。

1車両1キロ当たりの電力使用量の推移(kWh/Car-km)



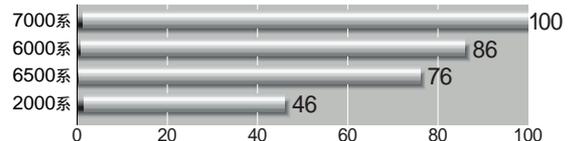
運輸エネルギー部会(名古屋本線地区)

2 車両の省エネルギー化

省エネの観点から、旧型車両の計画的な更新を進めています。ブレーキ時にモーターを発電機として作用させ、生み出された電力を架線に戻し、他の電車が加速する際その電力を返すようにできる「電力回生ブレーキシステム」や、架線から受ける直流電流を交流に変換し、効率よく電力の使用ができる「VVVFインバータ制御」機能を搭載した「省エネ型車両」への更新により、消費電力の削減を図っています。2000系(ミュースカイ)は、7000系(パノラマカー)に比べ、54%も省エネです。

平成22年度までに、7000系など旧型車両約200両を更新する計画をしており、平成19年度は56両新造予定です。今後も快適性の向上とともに、「省エネ型車両」の導入も推進していきます。

名鉄の車両別消費電力の比較(指数(7000系=100))



電力回生ブレーキの仕組み



- 1| ブレーキ時に、モーターを発電機として作用させ、発生する電力を架線へ返す。
- 2| 回生された電力をもらって加速する。

平成18年度末現在

車両数(モノレール6両含む) 1,130両
 「省エネ型車両」数 810両
 (=全体の72%)

3 電力施設の省エネルギー化

鉄道事業において非常に多く使用する電力を、最大限効率よく使用し、地球温暖化防止に貢献するため、電力施設の省エネ化を推進しています。平成18年度は、電力の安定供給を図るため、茶所・犬山・竹鼻の各変電所において改良工事を実施しました。

力率改善コンデンサーの設置

当社では、大容量の電力を直接、電力会社から購入し、沿線35か所に設けた自社変電所で受電し、主に電車の運転エネルギーとして使用しています。受電した電力を効率よく使用するため、変電所に力率改善コンデンサーを設置し、エネルギー効率の向上を図っています。平成5年から順次進めており、現在11の変電所で使用しています。

き電線の強化

架線に流している電力損失の低減化を図るため、き電線を太くするなどの強化を進めています。

上下一括き電方式の導入

架線に流している電力の損失低減と、回生電力の有効活用を図るため、当社のほとんどの線区で上下一括き電方式を採用しています。この方式は、上り下りの架線を接続して電力を供給する方式で、走行中の電車まで最短距離で電力を流すことができます。また、回生電力を上り下りに限定されることなく、上下どちらの線にある車両でも有効に使えるメリットもあります。

防音壁の設置

変電所等設備において、防音壁等を設置することにより、変圧器のうなり音や開閉装置等の動作音による騒音の軽減を図っています。



電気保守作業



防音壁を設置した犬山変電所

4 沿線環境保全

列車の走行時や保守作業時に発生する騒音・振動の軽減対策を継続的に行っています。

ロングレール化

レールには継目があり、継目の上を列車が通過することにより、騒音と振動が発生します。これを防止するため、継目を溶接し、1000m前後の長さにするロングレール化を各所で進めており、全線で約240kmで導入しています。

レールの重量化

レールを重いものにすることで安定し、乗り心地が向上するほか、騒音・振動の減少にも効果があります。本線軌道長のうち99%が50kg/m以上の重レールになっています。

防音型の保守作業機械の導入

防音型の保線機械の導入や作業効率の向上により、作業時の騒音軽減に取り組んでいます。



土保保守作業



防音型マルチプルタイタンパー

平成18年度 ロングレール施工実績

9.2km (累計施工実績 全線で240.1km)

TOPICS

車輪フラット検出装置

車輪踏面に発生したフラット・剥離・熱亀裂を早期発見する装置を、名古屋鉄道と共同開発で平成11年に導入し、騒音・振動低減と業務効率化に大きく寄与しています。最近では、日本貨物鉄道様、首都圏新都市鉄道(つくばエクスプレス)様・東京地下鉄様などで導入いただき、全国展開しています。(特許 第3620790号)

車輪測定状況

| お問合せ | 株式会社メイエレクトック 研究開発部 052-678-1895

5 リサイクルの取り組み

名鉄では早くから、使用済み乗車券のリサイクルに積極的に取り組んでいます。平成8年度にリサイクルシステムを稼動してから段階的にリサイクル処理量を増やし、平成18年度には全ての使用済み乗車券(定期券及びカード類含む)をリサイクルすることに初めて成功しました。

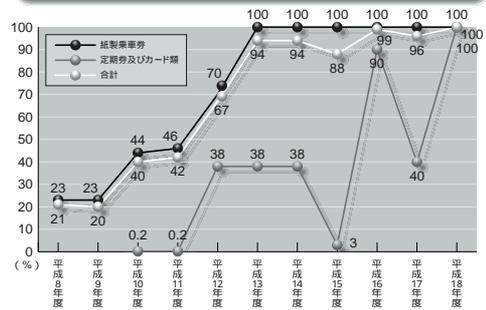
紙製乗車券の大部分は、マテリアルリサイクルを行っています。封筒や紙ファイル、名刺などの事務用品を始め、駅のベンチや分別ボックスへの再生も積極的に行い、社内でリサイクルシステムを回せる体制を整えているほか、システムを他の鉄道事業者等へも関連会社とともに販売を行い、リサイクルの輪を広げています。(平成18年度末時点 22社局)

平成18年度は、使用済み乗車券が68t発生、全てをリサイクル処理し、使用済み乗車券を原料に製作した乗車券リサイクルベンチは、名鉄名古屋駅・鳴海駅などに、138台新設しました。

平成18年度 乗車券リサイクル率

100%

使用済み乗車券のリサイクル率の推移



乗車券リサイクルベンチ(鳴海駅)

6 オフィスでのエコ活動

オフィスでの環境活動は、廃棄物の分別から省エネルギー、グリーン購入に至るまで、様々です。身近で幅広いオフィスでの取り組みは、企業の環境活動の基本として位置付け、地道に継続的に取り組んでいます。

多分別ボックスの設置

オフィスで発生する多種多様な廃棄物を、資源として可能な限り有効に活用したいという思いから、多分別ボックスの設置を行っています。本社事務所では、11種類に分別し、廃棄物のリサイクル率向上を図っています。

グリーン購入方針の策定

環境に配慮した資材や物品の購入を行うグリーン購入を進めています。当社では、購入の際の指針となる「グリーン購入方針」を平成15年に策定しています。(詳細は、当社ホームページに掲載しています)

クールビズの実践

名鉄では平成17年から、環境省が地球温暖化防止行動として提唱している「クールビズ」の実践を行っています。平成18年は、6月から9月の4ヵ月間、本社を中心とした部署で、空調温度を高めに設定し、軽装による勤務を実施しました。また冬季は、12月から翌年3月までの4ヵ月間、「ウォームビズ」にも取り組みました。



分別ボックス(本社)

平成18年度 グリーン購入率

55% (金額ベース)

TOPICS

各種古紙リサイクルシステム

事業を営む上で排出される多種多様な古紙は、リサイクルによって再資源化することに加え、情報漏洩にも配慮して処理することが求められています。名鉄協商では、乗車券リサイクルシステムで培ったクローズシステムを活かし、情報漏洩と資源循環の両面から古紙の処理を推進します。

| お問い合わせ | 名鉄協商株式会社 リサイクル・包材事業部 052-582-1094

7 その他の取り組み

自然エネルギーの採用

駅や駅ビルの設備において、太陽光や雨水など、自然エネルギーの採用を行っています。

尾張瀬戸駅では、平成13年から太陽光パネル及び雨水タンクを設置し、駅の照明の一部、トイレの洗浄水を賄っています。また名鉄新一宮ビル(名鉄百貨店一宮店)及び名鉄長住町ビル(岐阜ロフト)でも、雨水を雑用水の一部に活用しています。



太陽光パネル(尾張瀬戸駅)



雨水タンク(尾張瀬戸駅)



尾張瀬戸駅

平成13年に改装した尾張瀬戸駅には、環境に配慮したモデル駅として、太陽光発電パネルをはじめ、様々な環境対応設備を導入しています。

(p.19環境モデル路線のページもご参照ください)



名駅南地域冷暖房プラントビル

コジェネレーションシステムの導入

名鉄新一宮ビルにはガスコジェネレーションシステムを導入しています。このシステムは、都市ガスで自家発電を行うとともに、発電時に出る排熱も有効利用できます。エネルギー効率は、電力会社から送られてくる電力が35%程度であるのに対し、このシステムでは70~90%となっています。

また、名鉄名古屋駅及び本社、名鉄バスセンターのあるビルでは、ガスコジェネレーションシステムを活用した地域冷暖房を導入しています。

平成18年度実績

太陽光発電量..... 993kWh
雨水使用量..... 11,127m³

TOPICS

名古屋市から「エコ事業所」の認定を受けました

名古屋市の「エコ事業所認定制度」により、当社の駅、本社等が「エコ事業所」に認定されました。この制度は、環境に配慮した取り組みを自主的かつ積極的に実施している事業所を「エコ事業所」として名古屋市長が認定するもので、鉄道駅及び病院の認定は、当社施設が第1号です。



当社では、環境方針「名鉄グループエコ・ビジョン」のもと、使用済み乗車券のリサイクルやグリーン購入、省エネへの取り組み、地域清掃活動など、地道な環境活動を行ってまいりましたが、その活動状況が認められ、このたびの認定となりました。

名古屋市エコ事業所 認定事業所(平成19年6月6日認定)

名古屋市内全駅 37駅)

名古屋市内全サービスセンター(3か所) 本社 名鉄病院

行動指針 2 | 利便性の向上

名鉄では、エネルギー効率がよく、マイカーなど他の輸送機関に比べてCO₂の発生量が少ない鉄道の利用を一層促進し、地域の環境負荷軽減に貢献するため、より効率的で利便性の高い公共交通サービスの提供をめざしています。

1 バリアフリー化5ヵ年計画の策定と推進

皆様に安心してご利用いただける「人に優しい鉄道づくり」を進めています。施設面においては、「交通バリアフリー法」に基づく駅施設の整備をさらに推進するために、平成22年度までのバリアフリー化5ヵ年計画を策定しました。同法対象駅74駅のうち、平成18年度までに35駅の整備を完了しています。車両においても、車いす用座席の設置や車いす対応トイレを整備した車両の導入を進めています。

ソフト面でのバリアフリーも推進するため、「サービス介助士」(平成18年度末で276名)の配置や「耳マーク」の掲出、「こども110番の駅」の取り組みなどもあわせて行っています。



バリアフリー化した駅(新木曾川駅)

平成18年度 バリアフリー化工事実施駅
11駅(「5ヵ年計画」累計達成率 47%)

2 パーク&ライド駐車場の整備

名鉄では、マイカーの利便性と鉄道の環境効率のよさを組み合わせ「パーク&ライド」駐車場の整備を積極的に進め、その活用をお客さまに呼びかけています。中部圏は、マイカーの利用率が非常に高いため、移動手段をマイカーから鉄道に切り替えていただけるほど、地域の環境負荷軽減につながります。より多くのお客さまに最寄の駅の駐車場にマイカーを止め(パーク)、駅からは鉄道をご利用(ライド)いただけるよう、沿線に約2万台の駐車場を整備するとともに、「パーク&ライド」利用者向けにおトクなプリペイドカードの販売も行っています。

平成18年度 新規整備台数
292台(大同町~柴田駅間高架下等)



パーク&ライド駐車場

「パーク&ライド」とは、マイカーの利便性と鉄道の環境優位性の両方をうまく組み合わせ、環境にやさしい移動に欠かせないシステムです。名鉄沿線には約2万台の「パーク&ライド駐車場」があります。

3 共通SFカードシステムの整備



システムを導入した木曾川堤駅

名鉄では、中部圏の他の鉄道事業者と共通で利用できるSF(ストアードフェア)システム『トランパス』の利用範囲を拡大しています。1枚のカードで複数の事業者間を利用でき、乗車券紙の削減にもつながるほか、一定のプレミアムが付与され、よりお値打ちに公共交通が利用できます。平成19年8月には、尾西線、広見線などに導入が完了し全276駅中、226駅でご利用いただけるようになりました。なお、平成22年度を目処に、ICカードシステムへの移行を予定しています。

行動指針 3 | 地域環境貢献

名鉄では、よりよい環境を次の世代に引き継いでいけるよう、地域の皆さまとともに、地域の環境負荷の軽減に取り組み、地域価値の向上に貢献できるよう、前向きに取り組んでいます。

1 里山の保全

名鉄は、知多半島の南部、愛知県美浜町に約18haの里山を所有しています。この里山を美浜町に提供し、地元が進めている「里山保全活動」のフィールドとして活用いただけるよう、協力を行っています。平成12年から毎年地元で開催されている自然観察ハイキングには、地元から多くの方が参加されており、植林活動などを通じて、里山のよさと大切さを、身をもって感じていただいています。今後も、里山保全活動への協力を通じて、環境にやさしい地域づくりに貢献していきたいと考えています。



里山保全活動(美浜町内)

2 沿線での清掃奉仕活動

名鉄は、沿線を中心に駅をはじめ、多くの事業所が点在しています。事業所が所在するそれぞれの地域の皆さまと、よりよい関係を保ち、共存させていただくため、環境面での社会貢献活動も積極的に行っています。

例えば、本社周辺では「名駅をきれいにする会」を立ち上げ、名鉄グループの各社とともに毎月第2・第4月曜日に、東岡崎駅や名鉄岐阜駅周辺でも毎月定期的に清掃活動を行っています。



名鉄岐阜駅での清掃活動

環境モデル路線 ~ 瀬戸線 ~

名鉄では、瀬戸線を「環境モデル路線」として位置付けて、様々な環境配慮を施しています。リサイクル品の利用や省エネルギー対策設備の設置など、環境にやさしい施設づくりに努めています。



廃残土を含んだブロックで仕上げたホーム

平成13年4月に竣工し、使用開始した尾張瀬戸駅は「環境モデル駅」として、ホーム仕上げ材に瀬戸産廃残土(珪砂)を含んだブロックの使用、乗車券リサイクルベンチの設置のほか、太陽光発電システムの導入、雨水をトイレの洗浄水に活用できるシステムの導入を行うなど、環境に配慮した設備、材料を導入しています。

また、瀬戸線を管轄する駅・乗務区等では、定期的に環境に関する標語を従業員から応募、掲示して意識の高揚を図るとともに、省エネ運転の研究や食事で使用した割箸のリサイクルにも取り組むなど、日頃から環境に配慮した取り組みを行っています。



尾張瀬戸駅外観

行動指針 4 | 環境法令の遵守

名鉄では、環境法令に関して正しく理解するとともに、その遵守を徹底することは、環境活動の基本と考え、日頃から環境問題に関する意識を高く持ち、従業員一人ひとりが主体的に考え行動しています。

1 環境教育・環境監査

名鉄では、従業員一人ひとりが環境問題や環境法令に対して正しい認識を持つことが、活動の基礎として一番重要であると認識し、全ての従業員に対して、定期的な環境教育を実施し、理解の定着を図っています。(新規採用時、入社10・20年経過時、昇格時等)

また、各部署ごとに環境監査も定期的を実施しています。被監査部署は、関係する環境法令や社内規定を自己監査で事前に確認、内部監査担当者が実地監査で実際の状況を確認します。内部監査担当者は適宜改善勧告を出し、速やかな改善を促します。

平成18年度 環境教育

実施回数...8回 / 受講者数...456名

平成18年度 環境被監査部署

自己監査...44部署 / 実地監査...3部署

2 PCB廃棄物への対応について

名鉄では、過去に使用していたPCB(ポリ塩化ビフェニル)を含んだコンデンサなどの電器機器類を、法律に基づき漏洩のないよう、保管しています。今後は処理施設との協議を深め、処理を推進していきます。



PCB保管庫(舞木検査場)

3 アスベストに関する対応について

アスベストを使用している鉄道車両については、飛散しないよう対応済みであり、順次廃車を行っています。このほか、名鉄バスセンターのアスベスト撤去工事は平成18年11月に終了しました。なお、過去にイベントなどで販売した鉄道車両部品にアスベストが混入していることが判明したため、公表するとともに、現在回収、除去などの対応を行っています。

お問合せ 車両部品のアスベスト窓口 車両保守部 052-588-0865

名鉄病院における廃棄物の不適切な分別に関する対応について

【概要】名鉄病院において、処理を委託している産業廃棄物の中に医療廃棄物が一部混入し、医療廃棄物処分の条件を満たしていない処分場へ持ち込まれ、処分されていたものです。

【原因】廃棄物の処理を委託する際、不注意から一部不適切な分別があり、結果として委託契約にない医療廃棄物を混入させたまま、産業廃棄物として処理されたことが主な原因です。なお、一部混入してしまった医療廃棄物は、感染性はなく問題ないとされています。

【対策】院内に医療廃棄物管理委員会を設置し管理体制を確立、医療廃棄物の種類と分別方法を再検討し、廃棄物収納容器に排出部署名を明記し、責任体制の明確化を図るとともに分別の周知徹底、職員の意識改革を図りました。また、医療廃棄物の処理方法を変更し、リサイクル処理が出来る医療廃棄物以外はすべて焼却し、一切処理場に持ち込まれない体制としました。

旧・岐阜検車区における土壌汚染について

【概要】旧・岐阜市内線(平成17年廃止)の車両を整備していた旧・岐阜検車区(岐阜市)の跡地約17,153m²について、土壌汚染の自主調査を実施したところ、約450m²で土壌汚染対策法等に基づく基準を超過する鉛、フッ素及びダイオキシン類が検出されました。なお、地下水調査及び敷地境界土壌ならびに周辺河川底質調査はいずれも基準に適合していました。

【原因】車両材料の切削屑や、バッテリー廃液の漏出及び現地焼却灰等の埋設によるものと考えられます。

【対策】当該土地を立入り禁止するとともに、岐阜市と協議を行い、平成19年度中に汚染土壌の撤去を完了させる予定です。また撤去完了後、地下水調査を2年間実施し、確実に汚染が改善されたことを確認していきます。

名鉄グループの取り組み

鉄軌道 Railroad

東海及び北陸地域において、それぞれの地域に密着した鉄軌道事業を展開しています。「環境にやさしい」と、その存在を見直された鉄軌道の存在意義をさらに高めるため、一層乗りやすい、使いやすい鉄軌道を目指しています。

低床式車両の導入



豊橋市内と渥美半島に鉄軌道路線を持つ豊橋鉄道では、市内線(路面電車)に「低床式車両」をはじめ導入しました。停留所の床面から車両までの段差は、従来車に比べ約35cm改善され、

お年寄りや子どもでも乗りやすい車両となっています。低床式車両の導入とともに、人やまちや環境に貢献する電車の存在をアピールするキャンペーンも展開しています。自社制作ポスター類には、「お客様とまち、環境にやさしい電車・バス」のメッセージを盛り込み、お客さまへの認知向上と、さらなる利用促進を期待しています。

この低床式車両(新モ800形)は、VVVFインバータ制御を搭載した、省エネにも配慮した車両です。モ780形と合わせてVVVFインバータ車を8両導入し、路面電車全体の50%を占めます。

お問合せ 豊橋鉄道株式会社 営業企画部
0532 - 53 - 2133

こどもの日 乗り放題企画



福井鉄道では、5月3日から5日に限り、小学生以下の運賃を無料にする企画「福鉄電車が贈るこどもの日プレゼント」を実施しました。「電車離れ」が進む小学生に、電車の乗り方を体験できる機会を提供するとともに、次回は大人の方とともに再び利用いただくことにつながればとの期待を込めた企画でしたが、大変好評を得ました。3日間でのべ3,300名のご利用をいただきました。

なお、同社では低床式車両の導入を進めるとともに、より乗っていただきやすい施設づくりも推進しています。

お問合せ 福井鉄道株式会社 鉄道部
0778 - 21 - 0706



サイクルトレイン

サイクルトレイン

金沢市を起点に鉄道網を広げる北陸鉄道では、自転車をもそのまま電車の中に持ち込める「サイクルトレイン」を、毎年3月21日から11月30日に実施しています。

石川線の野町、鶴来、加賀一の宮の各駅間で乗り降りが可能で、持込料金も不要のため、沿線でサイクリングを楽しむお客さまに大変好評を得、昨年は延べ233名のご利用をいただきました。

お問合せ 北陸鉄道株式会社 企画部 076 - 237 - 8113

TOPICS

軌条踏面塗油装置

列車が急曲線部を通過する時に発生する、周波数の高い不快な「きしり音」の低減装置を名古屋鉄道と共同開発し、昭和62年より随時導入し、騒音低減に大きく寄与しています。また、横浜高速鉄道様にも導入頂くなど、全国展開しています。



装置設置状況

お問合せ 株式会社マイエレクトリック 鉄道機器部 052 - 678 - 1843



バス

Bus

バス事業は、鉄軌道事業とともに、地域の皆様の足として永年営んでまいりました。名鉄バスをはじめ、岐阜乗合自動車、知多乗合、宮城交通などが各地域に密着した路線網を展開しています。また、観光バス事業を、名古屋観光日急、名鉄東部観光バス、名鉄西部観光バスなどが営んでおります。



電気式ハイブリッドバス(名鉄バス)

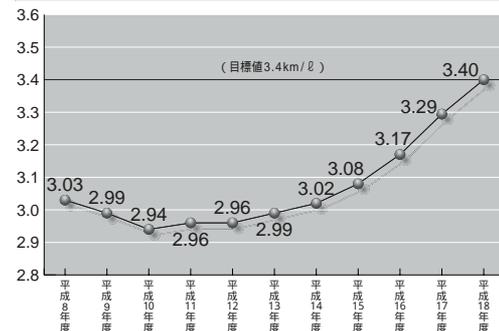
バス事業各社では、排ガス規制に伴い環境に優しい車両への更新を順次進めているのはもちろんのこと、ノンステップバスなど人に優しい車両の導入を進めています。一部の会社では「グリーン経営認証」を取得するなど、さらに環境に配慮した事業展開を行っています。

燃費向上の取り組み

バス各社では、アイドリングストップの励行は当然のこと、各社各ドライバーが一定の燃費向上目標を掲げて「エコドライブ」に努力しています。名鉄バスでは、「平成18年度までにバスの燃費を1ℓ当り3.4kmとする」との燃費向上目標を設定し、ドライバー一人ひとりがその実現に努力した結果、平成18年度は、3.40km/ℓとなり、目標を達成いたしました。これは、平成10年度の2.94km/ℓに比べ15%も向上した数値であり、今後の目標としても、この燃費を維持するよう努めてまいります。

お問合せ 名鉄バス株式会社 管理部 052-588-0876

名鉄バスの燃費の推移 (km/ℓ)



デジタルタコグラフ分析風景

デジタルタコグラフの導入

燃費のさらなる向上を目指して、乗務員の運転を科学的に分析できるよう、名鉄バスでは、デジタルタコグラフを全ての車両へ設置しております。

デジタルタコグラフ自体が直接燃料の使用量を減らすわけではなく、乗務員の燃費に対する意識を変えることに意義があります。運転後、乗務員がパソコンで自身の結果を分析し、より効率的で環境負荷の少ない運転方法の見直しに努めています。

お問合せ 名鉄バス株式会社 管理部 052-588-0876



ICカードをタッチするだけで簡単に精算

ICカード乗車券の導入

岐阜乗合自動車では、「人・まち・環境にやさしいまちづくり」がテーマのオムニバスタウン事業の一環として、国・岐阜県・岐阜市の協力を得て、平成18年12月1日よりICカード乗車券「ayuca(アユカ)」を導入しました。残高が少なくなっても、同じカードに積み増しすることで繰り返しご利用いただけますので、使用済み乗車券の発生が抑制できます。乗車する度に、ポイントが付加され運賃に還元されるなど、環境にやさしいシステムとしてよりご利用いただけるよう取り組んでいます。

お問合せ 岐阜乗合自動車株式会社 交通政策室 058-293-5140

「エコツーリズム大賞」特別賞を受賞

中部山岳国立公園内の乗鞍、上高地へ路線バスを運行する濃飛乗合自動車は、共同運行する松本電気鉄道とともに、第2回「エコツーリズム大賞」の特別賞を受賞しました。

この賞は、環境省がエコツーリズムを実践する地域や事業者の優れた取り組みを表彰するものです。同路線へ乗り入れるバスを全てハイブリッドバス等の低公害バスに変更し、実際に環境保全効果が現れている点や、マイカー規制協議会への分担金拠出を通じて環境面での地域還元を行っている点が、エコツーリズムの実現に資する取り組みとして評価されました。



上高地へ乗り入れる同社の低公害バス

お問合せ 濃飛乗合自動車株式会社 企画管理部 0577-32-0045

バイオマス燃料を使用したバスによるエコツアーの実施



網走バスでは、名鉄観光サービスと連携して、環境にやさしい「エコ燃料」を使用し、世界自然遺産である知床など、北海道の観光地を周遊するエコツアーを平成18年11月に初めて実施しました。名鉄観光サービス主催の「花がバスを動かします～北海道憧れの“景色に乗って”エコな旅～」の観光コースの中で、ひまわりを原料とするバイオマス燃料で動くバスにご乗車いただき、好評をいただきました。

お問合せ 網走バス株式会社 貸切事業課 0152-43-4103
名鉄観光サービス株式会社 経営企画部 052-582-2108

TOPICS

エコドライブキャンペーンの実施

ニッポンレンタカー名鉄では、9月1日から9月30日までの1ヵ月間、愛知・岐阜県下の全営業所で「モリゾー・キッコロとエコドライブキャンペーン」を実施しました。オープニングイベントでは、愛・地球博の公式マスコットキャラクター「モリゾーとキッコロ」の応援を得て、金山総合駅前では花の種やエコカードを配布、中部国際空港では記念写真撮影会を行いました。今後もキャンペーンを通じてエコドライブに対する意識向上を呼びかけていきます。



お問合せ | ニッポンレンタカー名鉄株式会社 総務部 052-561-0721



タクシー

Taxi

タクシー事業は「名タク」の愛称で親しまれている名鉄交通を中心として、東海北陸地域を基盤に事業展開しており、地域の足として質の高いサービスを提供しています。

名鉄交通や名鉄東部交通など多くの会社がグリーン経営の認証を取得し、エコドライブやアイドリングストップ、低公害車の導入など、環境に配慮した経営を進めています。

人工衛星によるGPS - AVM自動配車システムの導入も順次進め、スムーズで効率的な配車により余分な走行を減らすことにより、排ガス削減に努めています。



「グリーン経営」を推進する「名タク」

GPS、デジタル・タコグラフ機能装備のメーター器を全車搭載



新メーター
←安全運転日報

名鉄交通では、タクシーメーターに関する省令改正に合わせ、新基準に対応したメーター器を本年2月に全車両に導入しました。新メーターにはGPS端末が付加され、運転日報がすべて自動化されたことにより、乗務員がこれまで以上に安全運転に専念できるようになりました。さらに、デジタル・タコグラフ機能を装備したことで、安全運転日報に運転情報が一覧表示され、乗務員にも管理者にも運転結果が詳細にわかるようになりました。運転中のスピード超過やアイドリング超過、急加速・急減速時には警告音が発せられる機能もあり、安全運転と燃費向上に寄与しています。

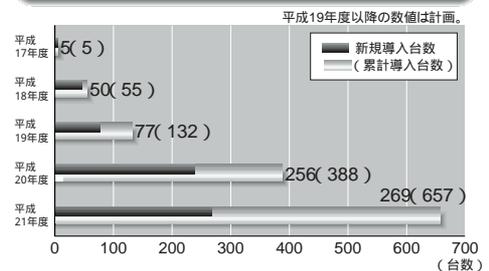
お問合せ 名鉄交通株式会社 グリーン経営推進室 052 - 331 - 2221

アイドリングストップ車の導入

名鉄交通では、平成17年度から車両代替時にアイドリング・ストップ機能付車両を導入しています。今後も改正省エネルギー法に基づく中長期計画により随時導入を進め、最終的には全車両をアイドリング・ストップ車にする予定です。

お問合せ 名鉄交通株式会社 グリーン経営推進室 052 - 331 - 2221

名鉄交通のアイドリングストップ車導入台数



TOPICS

自動車学校におけるエコ教習

名鉄自動車学校、名鉄自動車専門学校では、「地域の交通安全教育センターとしての社会的使命」を果たすため、学科教習カリキュラムでは、「安全運転の知識」という講座で、安全とエコの両面について、積極的な教習を行っています。同講座では、「交通公害、地球温暖化の防止等」をテーマに排出ガスと光化学スモッグ、速度と燃料消費の関係や、急発進、急ブレーキ、空ぶかしの弊害、アイドリングストップの推奨などを取り上げて、学科教習と技能教習が一体となった「環境にやさしいドライバー」の養成を行っています。



お問合せ | 学校法人名鉄学園 自動車学校事務局 052 - 891 - 4191



トラック

Transport



低公害車(名鉄運輸)

トラック事業は、「こぐま」のマークで親しまれている名鉄運輸を中心として、貨物やコンテナ輸送をはじめ、宅配システムや引越便などの名鉄流通ネットワークを全国に構築して事業を営んでいます。

ISO14001 認証取得(名鉄運輸、山梨名鉄運送)やグリーン経営認証取得を各社が進めるとともに、エコドライブの推奨や低公害車の導入など本業に直結した取り組みを積極的に進めています。

低燃費車・低公害車の導入拡大

名鉄運輸では、近年の燃料コスト増加への対応と環境対策強化の一環として、低燃費・低公害車の導入を積極的に推進しています。東京、名古屋、大阪などNOx・PM法適用エリアを中心にCNG(天然ガス)車を導入するとともに、アイドリングストップ車、ハイブリッド車などの導入も大幅に増加させています。

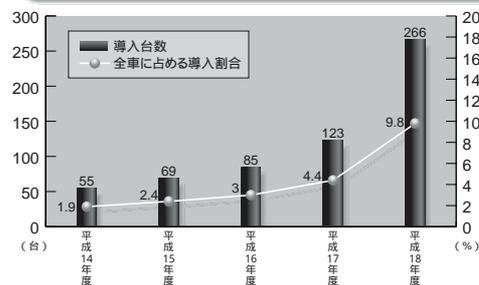
また、新長期排ガス規制対応車導入に合致するように、エンジンオイルをDH-2規格の環境対応型のオイルに変更しました(平成18年11月から順次導入)。平成17年8月から幹線輸送車両の新車にはエコタイヤを採用してきましたが、平成19年4月からは全面的な採用に切り替えました。

お問合せ 名鉄運輸株式会社 総務部 052-935-5721



CNG(天然ガス)車

名鉄運輸の低公害車導入の推移

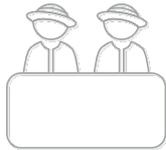


地域清掃(大阪支社)

美化推進運動への参加

名鉄運輸では、大阪支社・淀川支店・大阪工場において、地域の美化推進運動に協力するかたちで定期的に会社周辺の清掃活動に取り組んでいます。過去には大阪市環境事業局長より感謝状を受けた実績もあり、これからもより一層環境負荷軽減に向けた取り組みを進めていきます。

お問合せ 名鉄運輸株式会社 総務部 052-935-5721



流通

Commerce

百貨店事業では、名鉄百貨店と金沢名鉄丸越百貨店が、名古屋・一宮および金沢でそれぞれ百貨店を営んでいます。また、名鉄駅構内・ホームで売店やコンビニエンスストアを展開する名鉄産業、各種物販や駐車場、カーリースなどを行う名鉄協商などが多方面にわたって事業を展開しています。

名鉄百貨店と名鉄協商がISO14001の認証を、名鉄産業が名古屋市エコ事業所の認定を取得しているほか、社内での取り組みにとどまらず、エコバッグの利用や簡易包装、レジ袋削減などお客さまにもご協力いただき、環境に配慮した事業活動を推進しています。



名鉄百貨店本店



日本百貨店協会 Myスマートレジ袋

エコバッグの販売

環境保全に賛同いただいたお客さまに、めいてつオリジナルエコバッグをご利用いただいております。このバッグにはスタンプカードが1枚ついており、バッグを利用して商品をお持ち帰りになる場合に、お買上げ1,000円(税込)以上で、1日1個スタンプを押し、スタンプが10個になると500円のめいてつお買物券と引替えています。また、あわせて平成19年は日本百貨店協会製作の「Myスマートレジ袋」(写真商品・税込500円)を6月の環境月間に販売しご好評をいただきました。

お問合せ 株式会社名鉄百貨店 環境サービス部 052 - 585 - 2470

環境にやさしい、ゴミを出さない母の日ギフトラッピングコーナーを開設

名鉄百貨店本店で5,000円(税込)以上母の日ギフトをお買上げのお客さまに、環境にやさしい素材を使った素敵なラッピングの無料サービスを実施しました。お手持ち又はお買上げの風呂敷やスカーフを使ったゴミを出さないラッピングも承り、ご好評をいただきました。また、母の日にはラッピングアーティストによるデモンストレーションを実施しました。

お問合せ 株式会社名鉄百貨店 販売促進部 052 - 585 - 2850



「レジ袋削減ひと言声かけ運動」の展開

名鉄産業では、名古屋市の「環境デーなごや2006」への参加をきっかけに、直営売店約50店舗で「レジ袋削減ひと言声かけ運動」を展開しています。実施開始後の1週間でお客さまのご協力により、約17,000枚の削減につながりました。

お問合せ 名鉄産業株式会社 経営企画部 052 - 821 - 8913



不動産・開発

Real Estate
Development

不動産・開発事業では、名古屋鉄道が沿線及び北陸地区での大規模住宅団地の開発、ビルの賃貸事業を展開しているのをはじめ、名鉄不動産などが土地建物の販売、賃貸借、不動産の仲介、建設工事の設計・施工・監理などの事業を展開しています。

設計・建築から販売に至るそれぞれのプロセスにおいて環境負荷の軽減に配慮し、省エネ設計や有害化学物質の削減、周辺環境と調和した街づくりなどに積極的に取り組んでいます。



名古屋ルーセントタワー

安_んで健康的な住まいづくり



岡崎タワーレジデンス(イメージ)

LOHAS(健康と環境意識の高いライフスタイル)の考え方を取り入れ、分譲マンションでは、生ゴミ堆肥化プラントの導入や壁面緑化・屋上緑化の導入、24時間換気、ノンホルマリン・ノンアスベストの導入、自然素材・天然木など健康配慮型素材の導入など環境負荷軽減と健康に配慮した住まいづくりを進めています。郊外の団地ではスローライフな生活スタイルを提案するなどソフトの提供も検討していきます。

お問合せ 名鉄不動産株式会社 総務部 052-581-1221

名古屋ルーセントタワー における環境配慮

平成19年1月に竣工した名古屋ルーセントタワーでは、敷地の約30%(1,500m²)に及ぶ緑地形成・透水性舗装によるヒートアイランド軽減、トイレ洗浄水や植栽散水への雨水利用など、環境負荷軽減のための様々な配慮を行っています。

お問合せ 名古屋鉄道株式会社 ビル事業部 052-588-0882

名古屋鉄道、中部電力、トヨタ自動車、住友生命保険、大成建設などによる共同事業



ルーセントタワー敷地内の公開空地

地_ち域冷暖房の常駐オペレーションサービス



名鉄ビルディング管理は、各種の資格をもってビル設備を万全に運転管理する専門スタッフを常駐させ、快適なビルオペレーションを実現しています。なかでも、地域冷暖房のエネルギーセンターに設置されている大型の冷凍機やボイラーを効率良くオペレーションすることにより、地球温暖化防止対策、省エネルギー推進の担い手として貢献しています。ISO14001の認証を平成14年に取得し、ビル管理業務を通じた環境負荷軽減の取り組みを進めています。

お問合せ 名鉄ビルディング管理株式会社 総務部 052-551-0710



ホテル

Hotel

ホテル事業においては、名鉄グランドホテルをはじめ、中部圏の主要な交流拠点に立地する都市型ホテル、岐阜グランドホテルなど大型コンベンションの機能を併せ持つリゾート型ホテル、中部国際空港のセントレアホテルなどを運営しています。また、名鉄インは、宿泊特化型ホテルをチェーン展開しています。

ホテルサービスの事業活動から生じる環境負荷の軽減を進めつつ、同時に優れたサービスと商品を提供していくため、環境マネジメントシステムの導入、省エネルギーなどにも積極的に取り組んでいます。



名鉄グランドホテル客室

ISO14001 認証取得と環境にやさしい客室に改装



名駅をきれいにする会に参加する同社

名鉄グランドホテルは、「環境にやさしいエコホテル」を実現するため、平成18年12月に、宿泊・宴会・レストランなどホテルサービスの企画および提供業務を対象にISO14001の認証を取得しました。

また、平成19年2月までに全客室をリニューアルし、カードキー、二重窓による冷暖房費の削減、ボディーソープ、シャンプー、リンスのポンプ化による使用量と個別包装廃棄物の削減、液晶テレビ導入による電気使用量の削減、禁煙ルームの増室(名鉄ニューグランドホテルと合わせ43室から103室へ増加)など、環境にやさしい客室への改装を実施しました。

このほか、ホテル周辺の環境美化活動も積極的に行っています。



お問合せ 株式会社名鉄グランドホテル 企画室ISO推進担当 052 - 582 - 2236

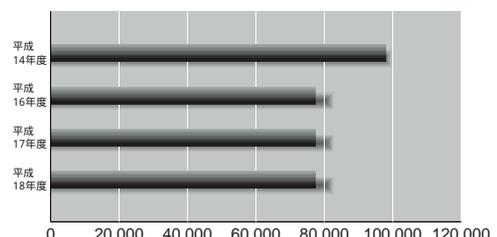
EscO事業の導入

岐阜グランドホテルでは、平成15年度のESCO事業により、空調設備の改修工事を行い1次エネルギーの削減ができました。総工事費の1/3を国の費用で行なったため、NEDO(新エネルギー産業技術総合開発機構)へ3年間の効果検証報告義務があります。

平成14年度をベースに16年度、17年度、18年度のエネルギー量はグラフのように平均15%減少し、成果発表会ではNEDOより高い評価を受けました。

お問合せ 株式会社岐阜グランドホテル 総務部 058 - 233 - 1118

一次エネルギー量(GJ)





レジャー

Leisure



南知多ビーチランドのイルカショー

文化テーマパーク事業として、古き良き明治時代を今に伝える博物館明治村、世界各国の暮らしや文化を紹介するリトルワールドなどを、アミューズメント事業として世界屈指のサル類動物園を併設した日本モンキーパーク、水族館と遊園地を併設した南知多ビーチランドなどを運営しています。新穂高と中央アルプス駒ヶ岳のロープウェイ事業では、中部山岳地帯の雄大な自然をお楽しみいただいています。

環境イベントの開催



どんぐりの苗植え会(日本モンキーパーク)

自然と親しみ、関心を持っていただくことで多くの皆さまに自然保護や環境の大切さを感じ取っていただくことは、大変意義深いことだと考えます。日本モンキーパーク・南知多ビーチランドでは、体験型の環境イベントを開催しています。

お問合せ 株式会社名鉄インプレス
営業企画部 052-588-0887

平成18年度に開催した主な環境イベント

日本モンキーパーク

環境イベント名	開催回数	参加人数
どんぐり苗植え会	1回	20名
どんぐりの小さな芽を探そう	1回	20名
お外であそぼ!(プロジェクトワイルド等)	12回	360名
光合成ペンダントをつくろう	4回	80名
竹で水鉄砲をつくろう	3回	60名
どんぐりをさがしてくらべてみよう	2回	60名
イモ掘り体験	2回	60名
森の工作室	常時開催	1,226名
学芸員によるレクチャー	随時開催	9,023名

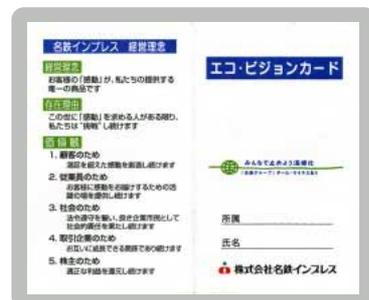
南知多ビーチランド

環境イベント名	開催回数	参加人数
海の学習講座	23回	1,445名
バックヤードツアー	86回	3,111名
地引き網体験	26回	3,502名
イルカ・アシカとのふれあい	20回	1,080名
サカナの解剖	2回	120名
磯の観察会	8回	308名

エコ・ビジョンカードの配布

名鉄インプレスでは、平成19年2月に「名鉄インプレス エコ・ビジョン」を策定し、その内容を「エコ・ビジョンカード」に記載して、パートタイマーも含めた全従業員に配布し、取り組みの徹底を図っています。

お問合せ 株式会社名鉄インプレス 総務部 052-588-0886





技術

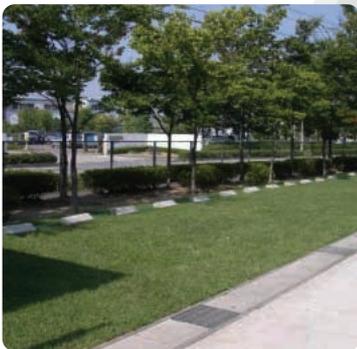
Technology

設備の保守整備、建設事業、情報サービスなどにおいて、社会ニーズに合った事業を意欲的に展開し、人と地球にやさしい環境と生活空間を最新技術で実現しています。

建設工事や保守作業を中心とした事業展開の上で環境マネジメントシステム導入への取り組みも早く、事務部門でも省エネ・省資源など積極的な取り組みを進めています。ISO認証は、矢作建設工業、メイエレクトク、電通名鉄コミュニケーションズが取得しています。



電通名鉄コミュニケーションズ



施工事例

環境にやさしい芝生駐車場

ヤハギEGPは、環境にやさしい(Ecological)芝生(Grass)駐車場(Parking)です。芝生駐車場はアスファルト舗装に比べ路面温度の上昇を抑え、周囲気温の低減効果により都市のヒートアイランド現象を抑制します。独自に開発した基盤材は取外し可能であり、オリジナル土壌は芝生にとって最適な育成環境をもたらします。これらの工夫により緑の空間を永続的に維持することができるようになりました。また、EGPは材料に廃プラスチックや廃ガラス等、リサイクル資材を使用したエコ商品です。

お問合せ ヤハギ緑化株式会社 052 - 937 - 6551

統合マネジメントシステムの運用

メイエレクトクは、品質・環境・労働安全衛生の各マネジメントシステムを統合した三位一体型の統合マネジメントシステム(IMS)を運用しており、その取り組みとして、環境に配慮した様々な製品を開発・提案しています。その一例として、平均折損回避率80%を上回る踏切遮断かん折損防止器を開発し、JR・私鉄各社様に採用頂き、累計3万数千台を販売しています。事故復旧に要する時間と資源の削減という両側面から、環境負荷低減に寄与しています。

お問合せ 株式会社メイエレクトク マネジメント監理部 052 - 678 - 1687



踏切遮断かん折損防止器



東部丘陵線を走行するリニモ

HSST(常電導磁気浮上システム)の実用化

名鉄と愛知県が中心となって設立した中部HSST開発が開発を進めてきたHSSTが、東部丘陵線において日本初の営業路線として開業し、平成17年に開催された愛・地球博のアクセスとして活躍しました。

HSSTは、振動や騒音がほとんどなく、沿線環境にも優しい快適な乗り物です。また、浮上して走行するため、摩擦部分がなく、車両やレールなどの保守作業が低減できる新しい都市交通システムです。

お問合せ 中部HSST開発株式会社 総務部 052 - 569 - 1453

環境負荷データ

名古屋鉄道、名鉄インプレス、名鉄バスの合計数値

()内は、名古屋鉄道の数値。

INPUT

 **電気**
482百万kWh(469百万kWh)

 **都市ガス**
254千m³(188千m³)

 **プロパンガス**
59千m³(29千m³)

 **A重油**
677千ℓ (218千ℓ)

 **ガソリン**
135千ℓ (84千ℓ)

 **灯油**
77千ℓ (64千ℓ)

 **軽油**
14,726千ℓ (25千ℓ)

 **水**
798千m³(430千m³)

 **紙(A4換算)**
16,762千枚(14,157千枚)

 **熱**
14,736MJ(14,736MJ)

OUTPUT

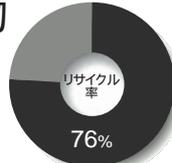
 **CO₂**
261千t - CO₂(214千t - CO₂)

 **一般廃棄物**
4,680t(4,034t)

 リサイクル率 50%

 **リサイクル**
2,329t(2,102t)

 **産業廃棄物**
1,240t(1,151t)

 リサイクル率 76%

 **リサイクル**
943t(921t)

 **乗車券類**
74t(68t)

 リサイクル率 100%

 **リサイクル**
74t(68t)

 **バス廃タイヤ**
77t(0t)

 リサイクル率 100%

 **リサイクル**
77t(0t)

リサイクル率は3社の数値を表しています。
産業廃棄物の数値には、電車・バス乗車券類、バス廃タイヤの数値を含まない。
二酸化炭素排出量は、地球温暖化対策推進法に基づき政府が公表している排出係数を使用し、算出。

環境会計

環境活動を定量的に把握し、活動を効率的に行うため、環境会計を導入しています。

平成18年度の環境保全コストは、約30億3千9百万円でした。常滑線を中心に行った騒音・振動対策工事やアスベスト対策工事など、継続的な公害対策への投資を実施したほか、電気設備の改良による省電力化やパーク&ライド駐車場の整備などの温暖化対策については前年度比1億2千7百万円増加するなど、地球環境保全に資する投資も積極的に実施しました。今後も可能な限り、環境活動を定量的に把握し、活動の効率性を高めていきます。

環境保全コスト(単位:千円)

内 容		投資額	費用額	
(1)事業エリア内コスト		2,690,389	202,605	
内 訳	①公害防止コスト	騒音対策:ロングレール化、PCマクラギ化、レールの重量化、防音車輪導入など 大気汚染対策:アスベスト対策、アイドリングストップバス導入など 水質汚染対策:浄化槽改修など	1,455,170	63,095
	②地球環境保全コスト	パーク&ライド駐車場の整備、き電線改良、ファンコイル更新など	1,226,343	16,951
	③資源循環コスト	廃棄物処理、地下水揚水設備更新など	8,876	122,559
(2)上・下流コスト	グリーン購入	0	75,428	
(3)管理活動コスト	人件費、会議費、ISO活動維持費、環境教育費用など	0	16,994	
(4)社会活動コスト	環境報告書の作成、イベント費用、緑化費用など	0	16,055	
(5)環境損傷コスト	PCB廃棄物処理関係費用(引当金繰入額含む)	0	37,600	
	小 計	2,690,389	348,682	
	コスト合計		3,039,071	

環境保全効果

効果の内容		環境保全効果を示す指標	
		指標の分類	指標の値(量)
(1)事業エリア内で生じる環境保全効果(事業エリア内効果)	①事業活動に投入する資源に関する効果	鉄道電力	12,794,702kWh
		太陽光発電	993kWh
		バス軽油	485,717ℓ
		水道水	11,127m ³
	②事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する効果	使用済み乗車券の再資源化による廃棄物抑制量	74t
(2)上・下流で生じる環境保全効果(上・下流効果)	③事業活動から算出する財・サービスに関する効果	—	—
(3)その他の環境保全効果	④輸送その他に関する効果	—	—

環境保全対策に伴う経済効果(単位:千円)

効果の内容	金額
収入	
主たる事業活動で生じた廃棄物のリサイクルまたは使用済み製品等のリサイクルによる事業収入	80,866
費用	
省エネルギーによるエネルギー費用削減	192,182
省資源またはリサイクルに伴う廃棄物処理費用の削減	3,975
合 計	277,023

集計期間:平成18年4月1日~平成19年3月31日 集計範囲:名古屋鉄道(株)(株)名鉄インプレス、名鉄バス(株)の事業範囲 確実に把握が可能で、環境目的が高い項目を計上 金額は税抜き、千円未満を切り捨てて表示 環境省「環境会計ガイドライン」および(社)日本民営鉄道協会「民鉄事業環境会計ガイドライン」に準拠 事務用品におけるグリーン購入費用は全額計上 費用に減価償却費は含まず

環境活動の沿革

平成 7年	乗車券リサイクルの取り組みを開始
平成 8年	名鉄協商(株)と乗車券リサイクルシステムを構築
平成 10年	「名鉄エコ・ビジョン」策定 アクション・エコ推進委員会を設置 第1回アクション・エコ推進会議開催
平成 11年	第1回環境講演会開催 従来の節約運動を「エコ・キャンペーン」と改称(以後、毎年夏・冬の全2回実施)
平成 12年	舞木検査場にてISO14001認証取得 環境報告書を発行 新・省エネ車両モ800形導入(平成13年、鉄道友の会よりローレル賞受賞) PETリサイクル素材制服の試験導入 リサイクルベンチの試験設置(名鉄名古屋駅) 名鉄長住町ビル・名鉄新一宮ビル完成(雨水利用システム・コジェネレーションシステムの導入)
平成 13年	小幡駅(瀬戸線)にて「コミュニケーション」実施 名鉄環境ビデオを製作 紙製乗車券の100%リサイクルシステム完成 環境モデル路線・モデル駅を制定 「平成13年度リサイクル推進功労者等表彰」において国土交通大臣賞受賞 環境会計を初めて公表
平成 14年	新・省エネ車両300系導入(純電気ブレーキ・ステンレス車体の採用) 瀬戸線に節水システム導入 リサイクル作業服の本格導入
平成 15年	水なしトイレの試験導入(大同町駅) 新リサイクルボックス(乗車券リサイクル品)の導入
平成 16年	環境監査を開始 PET製乗車券のサーマルリサイクルを開始
平成 17年	愛・地球博開催 新・省エネ型車両2000系導入
平成 18年	蛍光灯リサイクルの取り組みを開始 「名鉄グループエコ・ビジョン」策定 グループへ取り組みを拡大 エコマークを制定
平成 19年	「名鉄エコ・プラン」制定

名古屋鉄道(株)単体の環境活動について記載

社会活動報告

地域社会とよりよく共生する グループをめざして



名鉄グループは、「地域価値の向上に努め、永く社会に貢献する」ことを使命とする企業集団です。企業として存続していくために、地域からの信頼を得ることを基本姿勢として、社会的責任を完遂することが求められていることを認識し、事業を展開していかねばならないと考えています。

これまでも名鉄グループでは、多種多様な事業運営の一方で、地域文化向上のために社会貢献活動を積極的に行ってきました。また、皆様の生活に密着し、当たり前のごとく提供させていただかなくてはならない公共交通事業そのものも、社会貢献活動であるといえるかもしれません。

今後も皆様の期待に応え、地域から愛される「信頼のトップブランド」としての名鉄グループを築き上げていくため、社会に対して果たすべき役割や責任は何かを常に問いながら、地域とともに発展してまいります。

安全の確保

鉄道、バス、トラック、タクシー、船舶、航空とさまざまな公共交通機関を地域に提供する名鉄グループにとって、安全の確保は最大の社会的責任であると言えます。名古屋鉄道では、事故の危険性を可能な限り小さくし、お客さまに安心してご利用いただけるよう、昼夜を問わない点検・整備や線路の高架化、新たな技術開発による各種安全装置の設置、より高度な保安システムの導入、そして何よりも運転士の知識と技術を向上させる教育の徹底により、さらなる安全を追求しています。

安全管理体制の確立

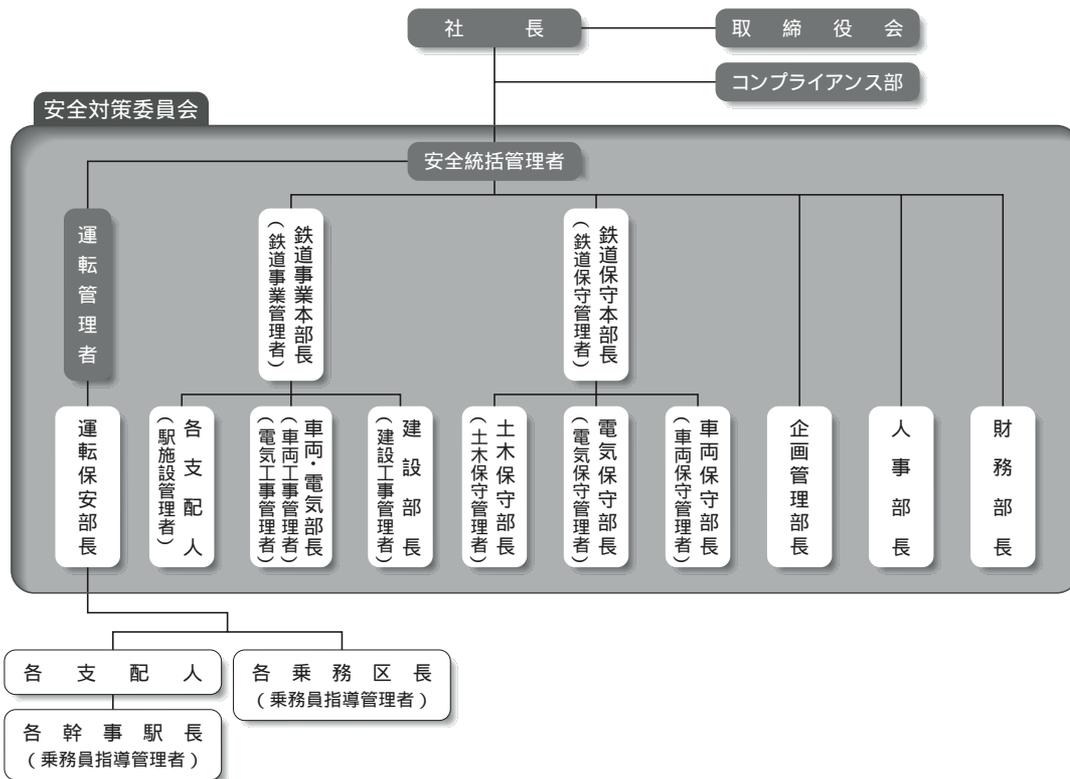
鉄道の安全性に関して、社会からの関心が非常に高まる中、運輸安全一括法が平成18年10月に施行され、鉄道事業者には安全管理体制の確立が求められました。名鉄では、安全体制の再確認と一層の強化を行い、鉄道安全管理規程を定めるとともに、安全統括管理者、運転管理者を定め、届け出ました。

安全に関する基本方針

会社一丸となって、安全・安心・安定輸送と快適なサービスを提供することにより、地域社会の発展に貢献していきます。

- (1) 事業の推進に当っては、安全の確保をすべてに優先させます。
- (2) 法令・規則を遵守し、高い倫理観を持って事業活動を行ないます。
- (3) 安全意識を高く持ち、社会の変化に対応した体制をつくります。
- (4) 事故が発生した場合は、一致協力してお客様の安全を第一に行動します。
- (5) 常に安全に関する知識・技能の習熟に努めます。

安全の確保に関する体制



安全報告書の公表

名鉄では輸送の安全性向上のための施策、ならびに取り組みの実績やその他安全に関する情報についてとりまとめ、「安全報告書」として公表する予定です。

自然災害への対応



名鉄では、地震や台風、大雨などの自然災害に対して迅速に対応し、お客さまの安全を確保するとともに、障害発生時には早期に復旧し、運輸事業の公共的使命を果たすため、防災体制や情報システムの整備を進めています。全線の防災気象情報をリアルタイムで把握できる防災情報集中監視システムのほか、災害時に従業員の安否を確認し、復旧に必要な要員を早期に整える安否確認システムを平成18年8月に導入しています。

安全装置の整備



名鉄では、列車衝突事故を防止するための設備としてATS(自動列車停止装置)を全線に整備しています。平成17年のJR福知山線の脱線事故を受けて、国土交通省から速度超過防止策を求められた曲線部分については、義務付けられた設置基準よりさらに厳しい独自の基準に基づき、該当した79ヵ所の曲線について18年度中にATSの整備を完了しました。また、駅におけるお客さまの安全を一層確保するため、防犯カメラや列車非常通報装置、転落防止用「ホームドア」などの設置を進めています。

線路の高架化



電車のスピードアップと本数の増加に伴い、踏切での事故の危険性が増し、さらに交通渋滞や都市機能の分断などが社会問題化しています。これを解決するため、国や地方自治体が行う連続立体交差事業等に協力し、沿線各地で工事を積極的に推し進めています。

平成18年度の
高架化工事
(名古屋鉄道)

【名古屋本線】本星崎～左京山 2.3km
【常滑線】大江～名和 1.7km
【三河線】三河知立～若林 1.7km
【西尾線】碧海堀内～米津 2.3km

食の安全確保



名古屋エアケータリングでは、国際的な食品安全基準を達成するために、原材料の受入から保存、調理、保管、盛付け、出荷に至る全工程を温度管理して食品の劣化を防ぐHACCPシステムを導入するなど、食の安全を守るため万全の体制を敷いています。

快適なサービスの提供

地球環境への問題意識が高まるなか、エネルギー効率が良い鉄道をはじめ、公共交通機関の果たす役割はますます重要となっています。名鉄グループは、さまざまな交通事業者と連携し、地域特性を活かした公共交通ネットワークの充実を図るとともに、お客さまに満足いただける質の高いサービスと安心・快適で便利な移動環境を提供してまいります。

CS向上活動の推進



名鉄では、多様化するお客さまへのご要望に的確にお応えし、サービス面でのCS*向上を図るため、平成17年10月にCS推進体制を再構築、特に接客サービスの向上を目標に展開しています。鉄道事業本部長を委員長とするCS推進委員会の下、各駅・乗務区にCS推進専任者・担当者を配置し、本社から現場の第一線まで一体となってCS向上に努めています。

*CS=Customer Satisfaction（お客さま満足）

「サービス介助士」の配置



名鉄ではお年寄りやお体が不自由な方が快適に駅をご利用できるよう、「サービス介助士」*の資格取得を推進しています。有資格者は現在276名おり（平成18年度末現在）主要駅に配置しています。

*サービス介助士：NPO法人「日本ケアフィットサービス協会」が認定する民間資格

介助タクシーの運行



名鉄交通では、お客さまを大切にする接客サービスの視点から、本業プラスのサービスの充実に努めており、その一環として平成11年8月から介助タクシーを運行しています。それに併せ、社内介助資格制度を導入し、約1,300人の営業係（乗務員）が同資格を取得して体の不自由な方や高齢なお客さまのご利用の手助けを行っています。

名鉄お客さまセンター



平成16年10月に「名鉄お客さまセンター」を設置し、電車・バスの時刻や運賃、きっぷ等に関するお問合せや、サービスに関するご意見・ご要望などを専属スタッフがお伺いしています。お客さまからのご意見・ご要望は接客サービスのより一層の向上や業務改善につなげています。

従業員の資質向上

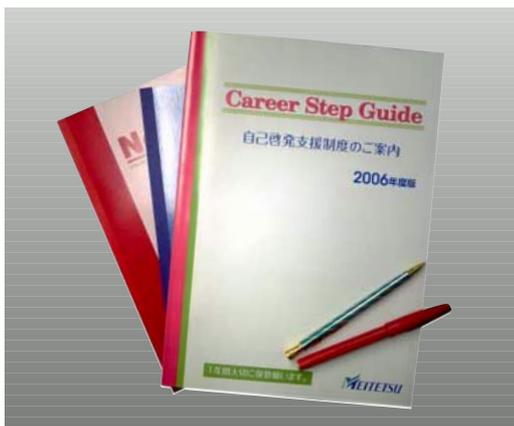
地域から信頼される名鉄グループの従業員として、一人ひとりが技能を磨き、自らの資質向上に努めて、新しい価値を創造し続ける社風の確立をめざしています。そのために、組織における役割と責任を明確化し、一人ひとりが能力を発揮できる環境と人材の育成などに力を入れています。

人事制度



名鉄では、平成17年7月から、組織において果たすことが期待される役割を明確化し、役割発揮に応じて処遇を決定する「役割等級制度」と、それに連動した評価制度を導入しました。役割業績を評価するための基準を職種別に具体化して提示するとともに、その評価結果をフィードバックして、従業員一人ひとりの今後の成長につなげることを目的としています。

自己啓発支援制度



名鉄では、各種能力向上を図るため、「Career Step Guide」を積極活用した自己啓発支援制度を導入し、従業員一人ひとりが意欲的に能力を高め、大きな結果を出せる実践的な自己啓発の支援体制を整えています。

人材育成



名鉄では、安全輸送を遂行するための徹底した安全教育と、お客さまサービス向上のためのCS教育に力を入れるのはもちろん、役割等級制度により総合職、本社部門、技術部門などコース毎に求められる役割を明確にした人材育成を進めています。

現場部門への女性の進出

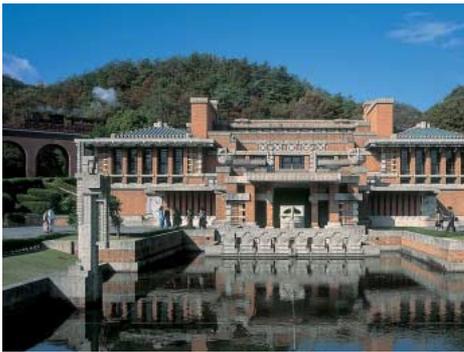


名鉄は、昭和58年に鉄道業界で初めて女性車掌を採用したのをはじめ、昭和61年からは駅現場で改札、案内を担当する係員として導入するなど積極的に現場部門に女性を採用してきました。平成11年の男女雇用機会均等法の改正による女性の深夜就業解禁を受け、鉄道の運転部門や名鉄グループのバス乗務員、タクシー乗務員などでも多くの女性が活躍しています。

社会への貢献

地域の発展とともに歩んできた名鉄グループにとって、地域社会に貢献し、地域文化の向上に寄与することは重要な使命のひとつです。平成17年に開村40年を迎えた博物館明治村、生涯学習意欲の高まりの中で地域の皆さまに豊かなカルチャーライフを提供する熱田の森文化センターなどの文化施設の運営も、名鉄グループの文化貢献の姿です。

文化財の保護



博物館明治村は、昭和40年の開村以来、近代日本の基礎を築いた明治時代の建造物の移築や物品の収集に取り組んできました。約100万㎡の敷地に、国の重要文化財12件をはじめ、国登録有形文化財に指定された60余件の建造物が保存展示され、本物ならではの文化的価値に触れることができます。



ライフサポート事業の展開



メイライフあじま

できるようなお手伝いする介助タクシーの運行や、介護付き有料老人ホーム「メイライフあじま」の運営など、積極的に取り組んでいます。

少子高齢化社会、バリアフリー社会に対応し、お年寄りの介護や看護、あるいは子育て支援など、生活支援サービスを行う各種の事業を展開しています。お年寄りやお体の不自由な方が気軽に外出

名鉄国際育英会



昭和58年に、それまでの名鉄育英会を統合して財団法人「名鉄国際育英会」を設立し、名古屋で学ぶ外国人留学生などに奨学資金を援助する国際的な育英事業を行っています。名鉄グループは、こうした教育機会の提供を通じて、青少年の育成に貢献しています。

編集後記

名鉄グループ一体となった環境活動をスタートさせて2年目を迎えました。昨年度は、各社の各事業における環境負荷の現状把握に時間を費やしましたが、同時に事業運営の進め方や設備更新のあり方など、環境を切り口として事業活動そのものを見直すきっかけともなりました。現在、実際に環境負荷を減らすにはどのような行動すればよいかといった問題に直面しておりますが、その問題解決には、昨年の見直しによって明らかになった様々な問題点について、どのように対処し、改善していくかが鍵だと考えております。

名鉄グループは、約200社からなる企業集団であり、非常に幅広い事業を展開しています。ある会社が持つ環境負荷軽減に関するノウハウを、別の会社、あるいはグループ全体で共有することで、環境に対する課題もスムーズに解決できるものと期待しています。グループの総合力を環境面でも発揮し、その成果を永く地域へ還元し続けることが、地域社会とともに歩み、地域の持続可能な発展に貢献する名鉄グループらしい環境経営のあり方ではないかと考えております。

環境問題が刻々と深化し、企業による環境への取り組みの重要性も一層高まりつつあります。このような状況の中、名鉄グループではその重要性を認識し、環境活動をはじめとした取り組み内容について、あらゆるステークホルダーにお知らせし、ご理解いただくことが必要であるとの認識に立ち、本報告書では、主に環境面・社会面の活動内容を体系的に整理し、それぞれご報告させていただく形にいたしました。まだまだ未熟な取り組みばかりでございますので、ご高覧の折には、ご意見・ご感想をいただければ幸いに存じます。

平成19年9月

名鉄グループ アクション・エコ推進委員会 委員長
名古屋鉄道株式会社 専務取締役

神野重行



編集方針

昨年に引き続き、名鉄グループが環境及び社会への取り組みに関してご紹介する冊子として製作いたしましたが、名古屋鉄道の取り組みを特に知りたいというご要望が多く寄せられたため、名古屋鉄道の取り組みに関わる内容を昨年より詳細にご報告できるよう、編集方法を変更しております。また、活動実績について具体的な数値があるものについては、極力その数値をお示しし、活動の規模をご理解いただけるよう特に配慮いたしました。

写真

フラッシュ

～最近の取り組み～

詳細は来年発行予定の「環境・社会報告書2008」でご報告します。



エコどもきっぷ発売(平成19年5月)



エコライフフェア出展(平成19年6月)



名鉄グループエコ燃料研修会(平成19年6月)



名鉄でんしゃまつり(平成19年7月)

本報告書に関する
お問合せ先

名鉄グループ アクション・エコ推進委員会事務局(名古屋鉄道株式会社経営企画部内)
 〒450-8501 名古屋市中村区名駅一丁目2番4号
 TEL 052-588-0807 FAX 052-588-0809
 E-mail action-eco@nrr.meitetsu.co.jp URL <http://www.meitetsu.co.jp/profile/kankyo/>



地球にウレシイを
この街から。

このキャンペーンマークは、豊かな地球環境の象徴であり、同時に名鉄グループ エコ・ビジョンの基本理念を達成するための4つの要素—環境保全に対する「意識の向上」「技術力の向上」「地域との連携」を3枚の若葉で、それらを根底で支える「法令遵守」をレールで表したものです。

表紙

ウミガメは世界で7種生息しているといわれますが、そのほとんどが絶滅の危機に瀕しています。南知多ビーチランドでは、砂浜に産卵された卵を守るため、ウミガメの人工孵化を行い、赤ちゃんガメの放流を行っています。自然界に帰り、元氣よく泳ぐ赤ちゃんガメは、太平洋を一周するほどの大回遊をして、20年あまりもかけて再び日本の海岸へ戻ってきます。そのときに、ウミガメが安心して産卵できるような静かな砂浜を残してあげられるよう、これからも引き続き自然保護活動に取り組んでいきます。

名古屋鉄道株式会社

平成19年9月発行

用紙 ●表紙/メイテツマット 110K 本文/メイテツマット 70K(乗車券40%、牛乳パック40%、古紙20%で配合された古紙配合率100%の再生紙を使用しています) 漂白のための塩素の使用はもちろん、無駄な表面塗工、特殊コーティングは施していません。

インク ●大豆インクの使用により石油系溶剤の使用量、VOC(揮発性有機化合物)発生を抑え、鉛、水銀、カドミウムなどの重金属も使用していません。

印刷 ●インク転写時にイソプロピルアルコールなどを含む湿し水が不要な、「水なし印刷」を採用しています。

R100

PRINTED WITH
SOY INK



みんなで止めよう温暖化

「名鉄グループ」チーム・マイナス6%